

氷川前遺跡 第95地点

遺跡名	氷川前遺跡
よみがな	ひかわまえいせき
調査地点	第95地点
主な時代	弥生時代後期（約1750年前）、平安時代（約1200年前）
調査地	富士見市大字水子字永久保2137-1、2140の一部、2138-1の一部 他
調査面積	2790 m ²
調査期間	令和4年2月15日～3月9日
調査内容	<p>【確認された主な遺構】 縄文時代前期竪穴住居跡1軒、縄文時代集石1基 弥生時代後期竪穴住居跡4軒、平安時代竪穴住居跡1軒</p> <p>【出土した主な遺物】 縄文土器、甕、台付甕、須恵器坏、須恵器甕、銅碗</p> <p>【概要】 氷川前遺跡は市域南部の水子に位置し、南西部は桜井谷、北側は新河岸川を臨む武蔵野台地縁辺部に立地しています。第95地点は遺跡南部に位置し、南部の桜井谷へ向かって緩やかに傾斜する台地先端部に該当します。</p> <p>当遺跡は旧石器時代から江戸時代にかけての複合遺跡で、縄文時代や弥生時代後期、平安時代の竪穴住居跡が確認され様々な遺物が出土しました。</p> <p>平安時代の竪穴住居跡からは廃棄された多量の須恵器甕や坏とともに、埼玉県内でも出土例の少ない銅碗が出土しました。銅碗は器壁の非常に薄い金属器で、仏教伝来とともに大陸から伝わったとされています。仏教遺物ですが、なぜ当遺跡から出土したのかについては、今のところ詳しく分かっておりません。</p>



調査状況



平安時代の竪穴住居跡調査状況



形状を保ったまま出土した銅碗



平安時代竪穴住居跡のカマド前で出土した銅碗